

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。  
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

**エントリー学校名：**東京学芸大学附属世田谷中学校

**活動名：**

授業力向上について  
教育実習生の視点に立つ授業改善

**解決すべき課題：**

教育実習生が大学で学んできたことを、いかに現場で実践するか考えていく中で、大学の学びと現場での授業づくりや授業実践・改善をどのように結びつけることができるかが必要であると考えてきた。これから教師を目指す学生にとって、現場に出てからも学び続けるための力を、教師を目指すか迷っている学生にとって、教師としての学びが魅力的であることを伝えることが附属の使命でもあるため、課題として設定した。

**目標・方針：**

授業改善を行うために、PDCA サイクルを元に、指導案作りや模擬授業、授業実践、評価活動（協議会）、改善目指して新たな授業づくりを行う。この際、協議会（評価活動）に重点を置き、授業に対して考えたことや疑問点を付せんに記し、つながれた指導案（時系列）に付せんを貼りながら振り返ることで、授業者にも可視化された振り返りを目指した。

**活動内容：**

授業改善を目指し、「付せん」を取り入れた「C」評価活動（協議会）を取り入れた実践。

①授業実践「D」：授業者以外の実習生を、抽出生徒（個人・グループ）、授業者、全体（撮影）担当に振り分け、授業観察を行う。

②授業評価「C」：指導案を時系列につなげ、各担当から出た意見を付せんに記し、時系列に貼付する。その際付せんの色で意見を分けることで、課題が可視化され時系列での問題点も明確になる。（ピンク：改善点、黄色：疑問・課題・問題点、青：工夫点・うまくいったこと等）付せんを貼付後、互いに意見を交換し合い、次の授業に向けて課題が改善されるようにする。写真①

③授業準備「A・P」：授業評価をもとに、明確になった課題解決を目指して授業づくりや模擬授業を行う。写真③これらのサイクルを繰り返して授業改善を目指す。

**活動の成果：**

授業改善のために取り入れた手法であるが、授業観察の視点が明確になったことも成果である。実習前半は、観察の視点が持てず、漠然と授業を観察する傾向が強い。しかし、授業観察の際に役割を分担し、どんな些細なことでも「付せん」を色分けして貼付する作業によって、課題が明確になる。そして、その課題は自分にも向けられることでもあるので、自分事として捉えられるようになる。実習後半は、改善点（ピンク）疑問点（黄色）の付せんが減り、工夫点（青）が増えることで、自分の授業力向上も実感してきた。しかし、一方で、協議会の時間が長時間に渡ることで実習生の負担感も否めなかった。

**アピールポイント（アイデアや工夫）：**

- ・付せんに意見を色分けすること（例）ピンク：改善点等々
- ・授業観察の視点ごとに実習生の担当を割り当てる（例）授業者担当や抽出生徒担当等々
- ・実習生同士の意見交換が活発になれば、自分たちで協議会を行うことができる（付せんはきっかけ作り）

<写真、図表添付欄>

写真①授業観察



写真②付せんを活用した振り返り（協議会）



写真③模擬授業風景

